



このところは曇り空が続いたり、プールに入っても風が少し冷たく感じたりする日もあります。夏本番の暑さはまだこれから。ご家庭でも、「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣を整えられるよう、ご協力をお願いします。

また、今週は個人懇談会で子どもたちが早く下校します。交通安全等には十分気をつけるよう、お家の方でもご指導をお願いします。

## 10周年記念航空写真撮影

先日お知らせしたように、6月20日（火）に、10周年記念の航空写真を撮りました。子どもたちはエプロンを着て、人文字を作りました。どんなデザインかは、本日からの個人懇談会で掲示しますので、ご覧ください。各家庭で購入をよろしくお願ひいたします。



## 10周年記念事業について

6月28日のPTA評議員会で、今年度10周年記念事業について提案がされました。「10周年記念品贈呈」「10周年記念イベント実施」「10周年記念市小だより作成」「10周年記念航空写真撮影」の4つの事業について承認されました。今後、詳しい内容を決めていきます。決まった内容については、後日改めてお知らせします。

## PTA新聞コンクールで愛知県小中学校PTA連絡協議会長賞受賞！

平成28年度の広報部が作成したPTA新聞が、審査の結果、「愛知県小中学校PTA連絡協議会長賞」を見事受賞しました。県内の多くの小中学校のPTAが応募する中で、この賞を受賞するのは快挙です。これも、28年度の広報部の方が、力を合わせ、取り組まれた結果です。いただいた賞状と盾は、本館昇降口に飾らせていただきます。ぜひご覧ください。



## 「夏祭り」のお知らせ

8月20日（日）に市が洞地区自治会連合会主催の夏祭りが、今年も長湫南部公園（1号公園）にて開催されます。子どもたちを中心とした地域住民のコミュニケーションづくりを目的としているので、ふるってご参加くださいとのことです。今年も、本校の金管バンド部が16時25分ごろからステージ発表を行います。また、今年も教職員有志・保護者有志によるコーナーが設けられます。なお、児童については、必ず保護者同伴で参加するようお願いいたします。



## あいさつ運動について

7月10日（月）～14日（金）まで、あいさつ運動を行います。1学期の終わりの時期に、しっかりとあいさつのできる市が洞小学校を目指して、児童・教職員・PTAのみなさんで力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。詳しい内容については、先週配付された案内をご覧ください。



## 下校の方法について

市小だより第4号に、本校の下校方法について掲載をしましたが、そのことが保護者に伝わっていないようでしたので、下の表で改めてお知らせします。特に1年生は、一斉下校以外は1年生だけの下校になります。これについて、学校では2年や3年と一緒に固まって下校できるように工夫をしています。より安全に下校するために地域のシニアクラブの方にも一部協力をしていただいています。保護者の方でできるだけ下校時間に危険な箇所を立ていただいたり、一緒に下校したりするなど、ご協力いただくと助かります。よろしくお願いいたします。



	月	火	水	木	金
5限後	●一斉下校	○1・2年下校	○1年下校	○1・2・3年下校:クラブ時 (●1~4年下校:委員会時)	○1・2・3年下校
6限後		●3~6年下校	●2~6年下校	●4(5)~6年下校	●4~6年下校

○:学年ごとの下校一学年ごとで整列し、学年で分団ごとに下校する。

●:集団下校一運動場に整列して下校する。部活終了後も集団下校する。木曜日は、一斉下校の日もあり。

## 花壇の苗植え

6月29日(木)の委員会の時間に、園芸委員と地域のシニアクラブのみなさんと一緒に花壇の花植を行いました。昨年度から協力していただき、一緒に花を植えるだけでなく、作業を一緒にしながら、交流を深めることができました。シニアクラブの方にご協力いただき、ありがとうございました。



## 幸せな子どもを育てる

先日、新聞に下のような記事が載っていました。その内容の一部を紹介したいと思います。

Aくんは小学3年生、あるとき、校庭の木の実をとろうとして、下から石を投げていたら、その石が友だちBくんの頭に当たった。学校で起きたことなので、担任はそのBくんの家に謝罪の連絡を入れた。

Aくんの母親は、そのことを連絡ノートで知った。母親はAくんを連れてBくんの家に謝りに行った。子どもが何かやらしたら親が頭を下げて謝る。その「姿」を息子に見せなければいけないと母親は思った。その時、「あんなことをしたから、お母さんが謝らなきゃいけないでしょ」と子どもに言うのはいけない。親が言うべきは「大切なことを学んだね」だけでいい。

Aくんの母親が謝りに行ったとき、Bくんの親が言ったのは、「この傷、どうしてくれるんですか?」ではなく、「お互いさますよ。うちの子どもだっていつ同じことをするか分からないですから」だった。その言葉がありがたくて涙が出た。Aくんの父親は、この話を聞いて、「もし逆の立場で相手の親が謝りに来たら、私も『お互いさます』と言おう」と心に決めた。

Aくんが生まれたのは、両親が結婚してから7年後、もう子どもを諦めかけていた頃だった。妊娠が分かってから、両親は「世の中には理不尽なことがたくさんある。ならば、家庭でも理不尽なルールをたくさん作ろう」と決めた。例えば、「おもちゃは絶対に買わない」とか、「テレビが観られるのは土日に1時間だけにしよう」とか。子どもは天からの「授かりもの」ではなく、「預かりもの」である。「預かった子どもは社会にお返しする。そのとき、たくさんの人のお役に立てる人間に育て上げることが親の役割であり、たくさんの人から『君が必要だ』と言われることが、子どもにとって一番幸せなことです」とAくんの両親は感じていた。

「幸せな子どもを育てる」、家庭と学校と社会はこの一点でつながってほしい。

○ 子育ての悩みについて話し合う「たんぼぼの会」ですが、次回は7月18日(火) 10:00~、市が洞小校長室にて行います。よろしければご参加ください。